

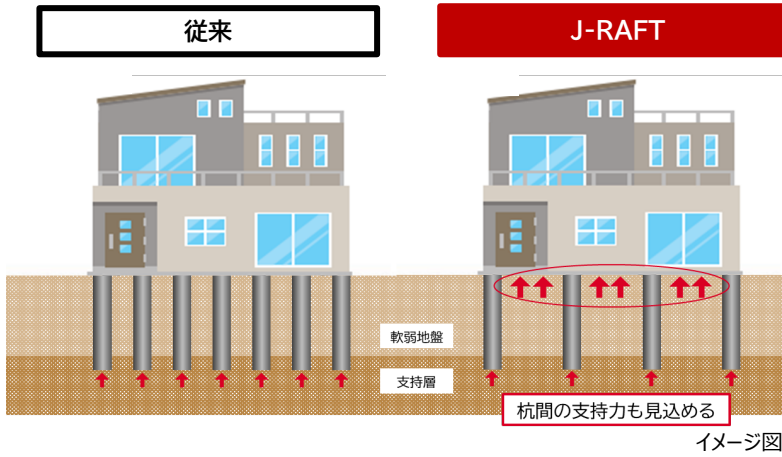
品質を確保したままコストダウンの見込める
 工法がついに完成！

J-RAFT®

複合改良地盤工法設計
 施工運用システム

【適用工法】

柱状改良地盤・ピユアパイル・小口径鋼管・既成コンクリートパイル・QPパイル・環境パイル(J-RAFTで杭配置を検討する事で、一般柱状改良地盤工事や一般小口径鋼管改良地盤工法が第3者証明工法になります。)



イメージ図

複合改良地盤工法とは、従来の杭状改良地盤工法の支持力に杭間の地盤支持力を合わせた設計による改良地盤工法です。

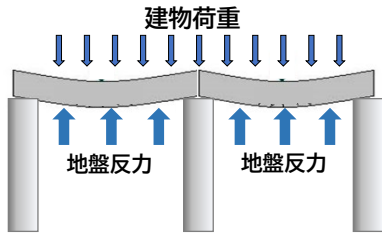
この設計法により、合理的かつ経済的な改良地盤設計が可能です。

※平屋(木造・鉄骨)・2階建て(木造)のベタ基礎の建物(法6条4号建築物)に使用できます。

J-RAFT 3つのメリット

- コストダウン
- 工事日程短縮
- 工物品質の確保

基礎剛性を確認して杭間隔を決定 (基礎剛性確認に建物荷重と地反力を使用)

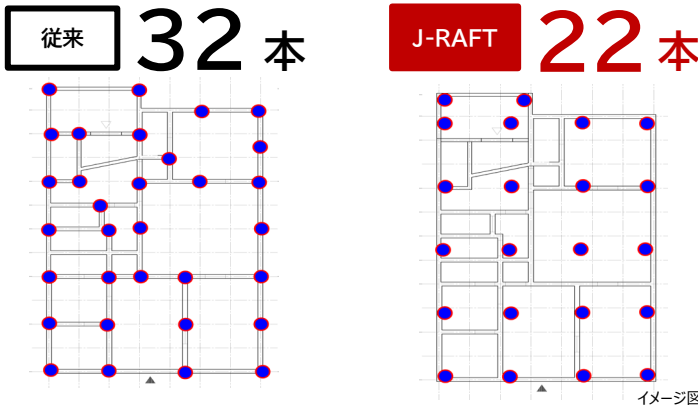


複合改良地盤工法における杭状改良体の配置方法および配置システム

特許出願中

杭配置 ※ 木造2階建て、ベタ基礎、一般地域での検討になります。

建物荷重の接地圧で杭本数を算出



イメージ図

階層	建物荷重 kN/m ²	積雪荷重 kN/m ²	設計荷重 kN/m ²
1F	7 (5~9) ※1	一般地域	0
		積雪1m	3
		多雪区域	-
2F	10 (8~12) ※1	一般地域	0
		積雪1m	3
		多雪区域	-

※1. 小規模建築物基礎設計指針参照

お問合せ先